

改憲阻止！許すな消費税増税！真の男女平等実現を！

道労連女性部ニュース

2019/9/27

北海道労働組合総連合女性部 TEL. 011-815-8181 FAX. 011-815-4545

子どもたちに 手渡そう！憲法9条

第62回北海道母親大会

9月16日札幌市内で第62回北海道母親大会が開催され、午前中は3つの分科会と見学分科会、特別分科会に830名、午後の全体会に1060名、のべ1890名が全道各地から参加しました。

笠島満恵実行委員長は開会挨拶で、「安倍政権は改憲の動きを強めてくるでしょう。私たち母親、女性は憲法9条改憲を絶対許しません。命とくらしをおびやかす政治を変えましょう。子どもたちの未来のために、憲法9条という宝物を無傷のまま子どもたちに手渡しましょう」と呼びかけました。



活動交流 ＊ ＊ ＊ 一緒に声をあげよう ＊ ＊ ＊



釧路赤十字病院新人看護師パワハラ自死事件について村山百合子さん（室蘭母親大会連絡会）は、「希望を胸に看護師になった息子は、『毎日胃痛と頭痛に悩まされ、夜中に目が覚めてしまう日々が続きました。集中力に欠けてミスを連発し、言われたことを直せないでいました。成長のない人間が給料をもらうわけにはいきません。本当に申し訳ありません』と遺書を残し、入社わずか半年の9月15日に自ら命を絶ちました。

業務による精神疾患発症と労災申請しましたが、精神的負荷は中から弱で不支給となり、現在、釧路地裁で労災不支給処分取り消し裁判中です。息子の命を守りきれなかった私に出来ることは息子と同じ思いをする人が二度と起きないように労災認定を勝ち取るまで署名と訴えを続けていくことです」と支援を訴えました。

JR日高線の存続について、萩野節子さん（新婦人浦河支部）は、「日高地方は2015年1月4日から6日にかけて大風と高波で海岸線が大きな被害を受け日高線は不通となり、全長125キロにわたって4年9ヶ月経っても汽車は走っていません。日高は大きな医療機関もなく、札幌、苫小牧まで行かなければなりません。通院している人は『一日でも早く汽車を』と切実に訴えます。浦河の池田町長



は、弱い立場の人たちの声を聞きJR全線の運行を強く求めています。しかし、JR北海道は、バス転換を認めれば、災害復旧をしようと言っています。なんと高圧的な態度でしょうか。私たちはあたりまえのことを要求しているのです。JR北海道、道、国は災害復旧を行い、これまで通り列車で通院、通学が出来るようにして欲しいです。多くの人たちと力を合わせ、JR日高線の復旧、運行を取り戻したいと思います」と訴えました。

NPT再検討会議・被爆75年について、鈴木由妃江さん(新婦人道本部)は、「来年、NPT再検討会議ニューヨーク行動に参加します。2017年7月7日核兵器廃止条約が採択され、核兵器廃絶へ大きな歴史のページが開かれました。世界では核兵器廃絶を求める声が高まっているにもかかわらず、安倍首相はアメリカの核の傘を理由に核兵器禁止条約参加を拒んでいます。本当に許せません。来年は被爆75年です。ヒバクシャ署名を更に積み上げ、日本政府が核兵器禁止条約に参加、批准するよう、運動と世論を広げていきましょう」と呼びかけました。



思考停止にならないこと

金平茂紀さん(TVジャーナリスト・早稲田大学大学院客員教授)が、「日本のテレビ報道の現場で今、何が起きているのか」と題して講演。「自分の目で耳で頭で考えることが大事。思考停止にならないこと」と、強調し、「敵意や憎しみをあおって日韓関係は悪化の一途をたどっているが、デモに立ち上がる韓国の若者達の姿や、自由や民主主義を求めて香港で若者が立ち上がっている真実を日本ではきちんとは見えていない。天皇の代替わりの報道が過熱化しているが、時間と空間を支配しているのは自分なんだと絶対権力者が示しているのが元号であり、今の政権は天皇制が持っている力を政治利用して自分たちの安定化をはかっている。そして、台風15号で千葉県が被害に遭ってるその時に組閣まつりやっている。誰のために日本のマスメディアはあるのか。三権分立という民主主義の原理が壊死している。司法が行政の追認機関になり、立法府は形骸化している。そしてメディアは衰退し、御用化している。記者は、萎縮、忖度、自主規制し、メディアはそういうものだとか麻痺している。『報道の自由』が強大な政治権力の介入によって危機に瀕しているというがもっと酷い状況だ。自分たちからすり寄り、メディアが自発的隷従によって監視機能を自ら放棄している。何がTV報道をダメにしているか。ひとつはセンセーショナリズム。センセーショナルな事件報道を延々と全チャンネル横並びでやり、本来伝えなければならないことが全部飛ぶ。メディアの役割は、事実を正確に迅速に伝達することで、多くの人が早く、正確に共有した方がいい情報を伝えることであり、それは国民の知る権利に奉仕することにつながる。今何を優先して考えるべきかをメディアが自分たちの立ち位置として示すことが重要だ。筑紫鉄也さんは遺言として、権力を監視すること。少数者の視点を持つこと。多様な意見を確保して自由にものが言える雰囲気確保することを残した。今はメディア全体で逆のことが起きている。僕は、たった一人になっても忘れない。皆さんの中にはメディアに対するあきらめがあると思うが、そうじゃない動きを新しく指示していくこと。意向停止に陥らないことが一番大事なことです」と強く訴え、会場は大きな拍手に包まれました。



集会の最後に、来年の道母親大会をさらに一回り多くの参加で迎えるために、全道でまた1年間頑張り合うことを確認し合い、元気にパレードをして今年の大会を終えました。